

日本、フランスの ガストロノミの 再検討

それを手にしたか

どのようにして

庶民はいつ、



庶民の食文化はどのようにして生まれたのか———

フランスのガストロノミはフランス革命後、貴族から庶民へ伝えられ、日本では江戸時代に庶民の間で和食が開花していたといわれます。その成り立ちを日本とフランスの社会学者、歴史学者に語っていただきます。

2017 7.22(Sat) 14:00 ~ 17:00

立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命 21 エポックホール

参加費：無料

主催：フードシステム・食品安全研究会 後援：立命館大学国際食文化研究センター

参加お申し込み
お問い合わせ先

資料準備のため、できるだけ事前のお申し込みをお願い致します。当日のご参加も歓迎致します。

新山陽子立命館大学経済学部 教授

MAIL foodsystem.culture@gmail.com

TEL 077-561-4894

PROGRAM

14:00 開会挨拶

朝倉敏夫

立命館大学経済学部 教授、国際食文化研究センター長

14:05 解題

新山陽子 立命館大学経済学部 教授

14:15 講演「Who copy who ?

フランス・ガストロノミ文化の伝播モデル」

Jean Pierre Poulain トゥールーズ第2 大学教授

14:40 講演「庶民が謳歌した江戸の食文化」

原田信男

国立館大学大学院 教授、和食文化国民会議顧問

15:05 講演「日本の食文化の位相と庶民の食文化の形成」

石毛直道 国立民族学博物館名誉教授

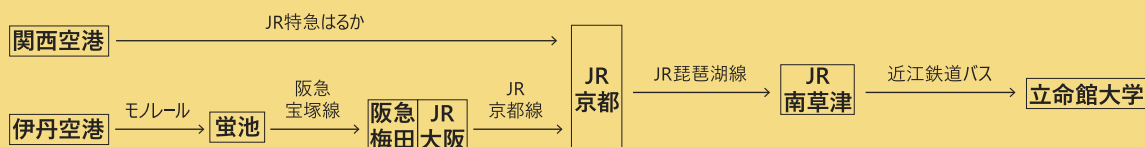
15:30 休憩

15:45 総合討論

16:55 閉会挨拶

新山陽子 立命館大学経済学部 教授

ACCESS



RITSUMEIKAN
UNIVERSITY